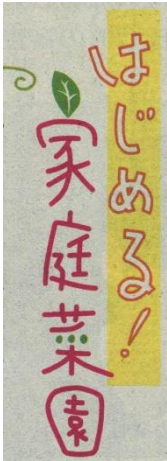


⑤セット玉ねぎ



冬に収穫 葉もおいしく

玉ねぎは、家庭でもよく使われる野菜で、11月頃に苗を植え付け、5、6月に収穫するのが一般的です。その中で、最近「セット玉ねぎ」として冬に収穫できるものがあります。玉もですが葉も柔らかくおいしく食べられます。

セット玉ねぎは、苗ではなく3月下旬頃に種をまき、5月中下旬に直径2.5～3センチの大きさで掘り上げ、貯蔵したセット球と呼ばれる小玉の玉ねぎを植え付けて育てます。ホームセンターなどでも「オニオンセット」や「ホーム玉ねぎ」などの名称で販売されていて、プランターでも手軽に楽しめます。

【プランター】

一般的なサイズのプランターまたは少し大きめのプランターがあればよいです。

【培養土・肥料】

排水が良く、有機物を多く含む土がいい。市販の野菜用培養土や赤玉土7割、腐葉土2割、バーミキュライト1割を混合して使います。培養土10割に対し、堆肥200グラム、化成肥料100グラム、苦土石灰100グラムを土とよく混合して使います。

【セット球の冷蔵】

セット球は掘り上げてから休眠しているため、植え付ける半月ほど前に10度くらいで冷蔵処理を行ってから植え付けます。

【植え付け】

植え付け時期は、8月30日を中心としてその前後3、4日が適期です。株間10～15センチ間隔で、根を下にし、セット球の首が見えるくらいの浅植えにしましょう。プランターで8個程度植えられます。植え付け時期はまだ高温が続くので、乾燥しないように十分に水を与え、日差しが強い時は、寒冷紗のトンネルで覆い、地温を下げましょう。植え付け後、約1週間で発芽し、9、10月の間に十分に葉を育てましょう。

【管理・追肥】

玉ねぎは乾燥すると肥大しにくくなるので、乾いたらしっかりかん水しましょう。9月下旬頃に1回追肥を行います。チッソの遅効きは球の肥大を遅らせるので、追肥の時期が遅くならないようにしましょう。

【収穫】

順調に生育すると、11月中旬頃から葉が倒れ始め、収穫できます。また、葉も柔らかくおいしいので、倒れる前に収穫して楽しんでも良いです。



(鹿児島市都市農業センター)

平成29年8月10日(木) / 南日本新聞